

一期一会の伝承と開拓

— 21世紀型の「青春のパライストラ」を構築しようではないか —



関西大学レスリング部
顧問 伴 義孝
(関西大学文学部教授)

近代競技スポーツの国際化は1896年にアテネで開催された第一回近代オリンピック大会を契機としています。たった110年ほど前のことです。このたび創部60周年を迎えるのが関西大学レスリング部の創設は1948年でした。第二次世界大戦直後のあの惨禍を背負ってきた先人たちは、明日への希望を繋ぐために、自己実現を期して青春の闘いを始めたのでした。ここに「110年」と「60年」とを比較してみると、前者はスポーツで世界平和の実現をと、後者は学生スポーツで前途有為の青年たるべき自己練磨をと、その理念を高らかに掲げてきたのです。この二つのいずれかに遜色という隔たりはありません。

さて10年前、関西大学レスリング部は、栄えある創部50周年記念誌『青春のパライストラ』を刊行しております。パライストラとは古代ギリシアのレスリング練習場のことなのですが、集まり競う青年たちは、たんにレスリングの練磨に明け暮れただけではありません。若人が集うところ学問が始まります。パライストラとは実に青春の道場としての学び舎（学校）の原形であったのです。そこへは、自らを鍛える意志をもった若人と、その若人を支援する人びとと、そして、すべての人間を至高へといざなう英知とが集まってきます。この三つがひとつに調和すれば、青春の道場の運営は、万全です。

こうして関西大学レスリング部はその本道を歩んできました。苦難あり。栄光あり。涙あり。歓喜あり。挫折あり。しかし関西大学の青春の道場では、いかなるときにも、かの「三つ」の調和が途絶えたことはありません。オリンピックの金メダリストも輩出しております。部員がたったの三名しかいない難局もありました。そして栄えある50周年の1998年、関西大学は、リーグ最下位に甘んじていました。しかし決して不名誉ではありません。逆境にあっても60周年へと膨らむ一期一会の伝承を守ってくれたのです。だからこそ、世に問うた記念誌『青春のパライストラ』はその内容と格式において日本一の名著であるとの評価を関係各位からもらいました。ここに「三つ」の調和が燦然と輝いています。

このたび「60周年記念誌」が刊行されることになりました。こうして一期一会の伝承が新たに開拓されていきます。60周年を迎える前年すなわち2007年の秋わが関西大学レスリング部は1部リーグへの復帰を果たしました。実に17年ぶりのことです。この「17年間」が何を物語っているのか、また「関大レスリング部の60年間」と「近代スポーツの110年間」が何を物語っているのか、あらためて、みんなが考えてみなければなりません。そして21世紀の学生レスリングの王道を、関西大学レスリング部が歩むために、高らかにファンファーレをならそうではありませんか。関大健児の活躍を祈念してやみません。

ところで日本ではすべての学生スポーツの発祥のそのときから「学生の活動」と「大学の後押し」と「OB／OGの支援」とが三位一体で協働しております。とりわけ「関西大学レスリング部OB会」は強力に「支援」を進めてくれました。そして、これからも、約束してくれています。そこへ倍旧の関西大学の後押しが加われば鬼に金棒というわけです。この三位一体のシステムは世界に類例のない日本独特の学生文化なのです。われわれはこの文化を進展させる義務を担っています。ここに、倍旧の「後押し」と「支援」とを、関係各位にお願いして、栄えある「60周年」のご挨拶とさせていただきます。